

フリガナ	カトウ	ヨシロウ	
氏 名	加藤	善朗	
所 属	共生社会学科		
	仏教コース		
職 名	教授 / 学長		
最終学歴	総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻博士後期課程 修了 博士(学術)		
主な経歴・職歴	京都西山短期大学(2005年4月～教授)		
研究分野	仏教学 日本思想史 美術史 文化財学日本中世の仏教美術		
所属学会	西山学会、日本印度学仏教学会、日本宗教学会、仏教史学会、密教図像学会		
担当科目	「仏教学概論」「共生社会学概論」「浄土教概論Ⅰ・Ⅱ」「三部経講読Ⅰ・Ⅱ」「事相教旨Ⅰ・Ⅱ」「生き方の哲学」「基礎ゼミナール」		
研究業績等 (直近5カ年)	(学術論文) ・「浄土教における『食』」日本仏教教育学研究 第32号(p.123-p.126) 令和3年3月 ・「法然と病」日本佛教學會年報第88号(p.5-p.8) 令和6年9月 (その他) ・研究論文「阿闍世のいる涅槃図」総合藝術雑誌『紫明』(p.45～48) 令和4年12月 ・「丹波篠山文化会議」こころの通信 第38号(p.1) 令和6年1月		
社会活動 (直近5カ年)	丹波篠山市史編さん委員会委員長(文化財編)(～現在まで) 長岡京市立長法寺小学校学校運営委員委員長(～現在まで) 長岡京市文化財保存活用委員(～現在まで) 社会福祉法人京都社会福祉協会理事(～現在まで) 社会福祉法人京都民生会理事(～現在まで) 社会福祉法人京都桜桃会評議員(～現在まで) 社会福祉法人長岡京せいしん会評議員(～現在まで)		
学生へのメッセージ			
専門研究は日本中世の仏教美術です。それをガラスケースに入った美術品としての仏画ではなく、どのようにしてむかしの宗教者が仏画をもちいてプレゼンテーションしたのか？という視点から研究しています。 かつて仏画をプレゼンテーションするためには、物語を用いて説明されてきていました。それを絵と文字の双方向から解読していくのが仏画の絵解き研究です。中世の絵解きには、笑いや恐怖、そして希望など、ときには涙をするような物語などさまざまな心の浄化がつまっています。それによって、むかしの人はここを元気にしていたのではないかと私は推測しています。 私の担当している科目の一つに「仏教学概論」があります。仏教も源流にさかのぼればさかのぼるほど、とてもシンプルです。その思想や考え方を日々の生活に活かすことができるような講義を行っています。仏教思想は、過去の遺産ではなく、現代でも脈々と生きている思想であることを知ってもらいたいと思います。			